

木にささっているのは、
木をきるおの斧という道具だ
ね。右は石の刃はの石斧、
左は鉄の刃てつの鉄斧だよ。

ハサミで紙を切ったみたい
に、木の繊維が断ち切られ
ています。

てつぶ
鉄斧の切れ方



繊維が切れずにすり潰さ
れたように切れます。

せきふ
石斧の切れ方



感想

感想

鉄の道具の登場

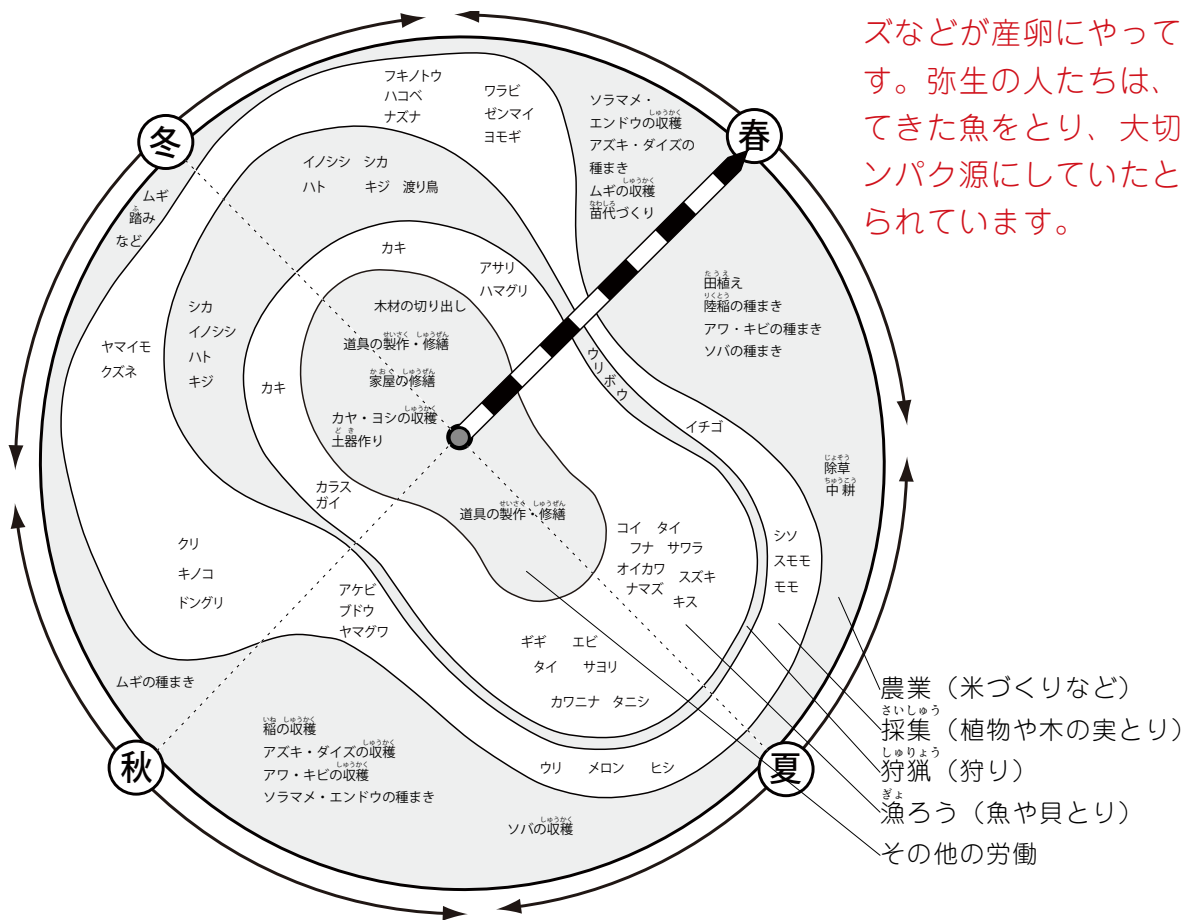
弥生時代になると鉄で作った道具である鉄器てつきが使われ始めます。石の斧と比
べて鉄の斧の方が木がよく切れて便利べんりです。けれども、鉄はまだ日本にほんに伝わっ
たばかりなので、貴重きちょうなものでした。

☆ 展示てんじを見ると、石斧せきふと鉄斧てつぶの切れ方はずいぶん違ちがうことがわかるよ。そ
れぞれの切れ方について、□に絵を、[]に感想を書いてみよう。

やよいじん
弥生人の1年

弥生時代は、今よりも食べ物を手に入れるのに多くの時間がかかりました。また、冷蔵庫など保存するものがないので、人々は季節ごとに、よくとれる食べ物をとって暮らしていました。

水田にはコイ・フナ・ナマズなどが産卵にやってきます。弥生の人たちは、やってきた魚をとり、大切なタンパク源にしていたと考えられています。



やよいの人たちがしていた労働を季節ごとに見てみよう。労働の量は農業・採集・狩猟・漁ろうなどに分けているよ。例えば、春にいちばん多い労働は農業、2番目が漁ろうになるよ。



☆ 弥生時代の人たちが、点線でしめした春夏秋冬のそれぞれの季節に、「その他の労働」以外で、もっとも多くしていた労働は何かな。

- 春 (農業)
- 夏 漁ろう (魚や貝とり)
- 秋 農業 (米づくり) ※採集と併記でも可
- 冬 狩猟 (狩り)